

# 造成の考え方等について

# 造成の考え方等について

---

## 【基本条件の整理について】

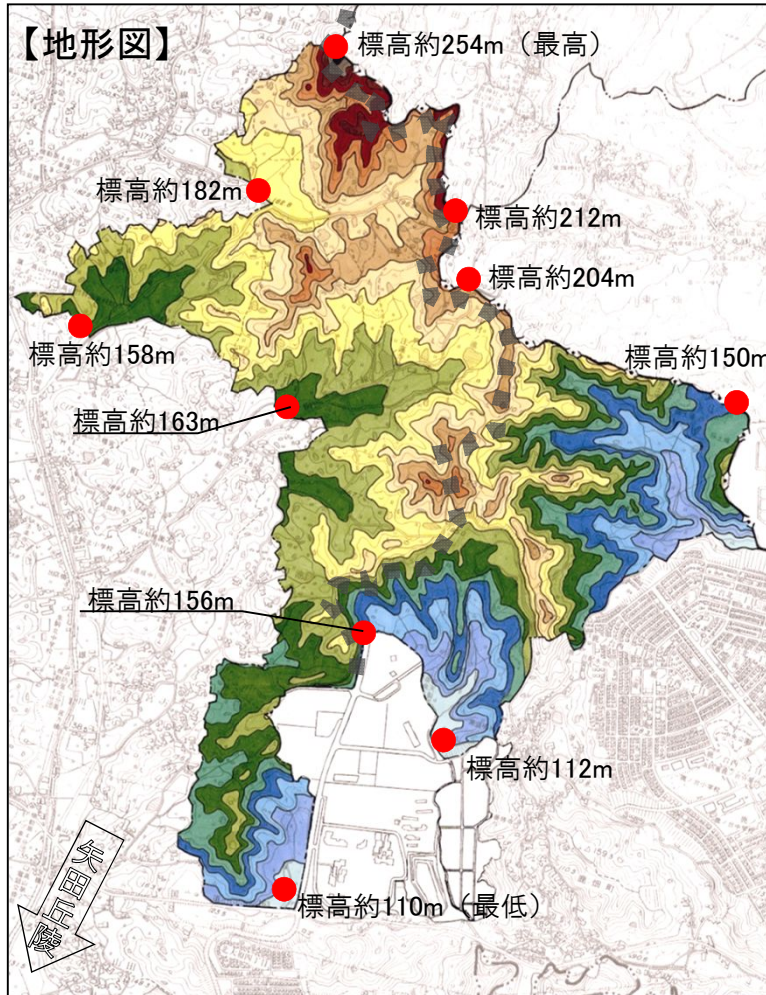
事業期間の短縮及び経済性等を考慮しつつ、自然環境の保全も踏まえた造成の検討が必要

⇒ 上記を踏まえた検討のため、基本条件(下記)を整理

- ① 地形
- ② 水系
- ③ 既存施設

# 造成の考え方等について

## ① 地形



出典：独立行政法人都市再生機構資料より作成

## 地形

現況について

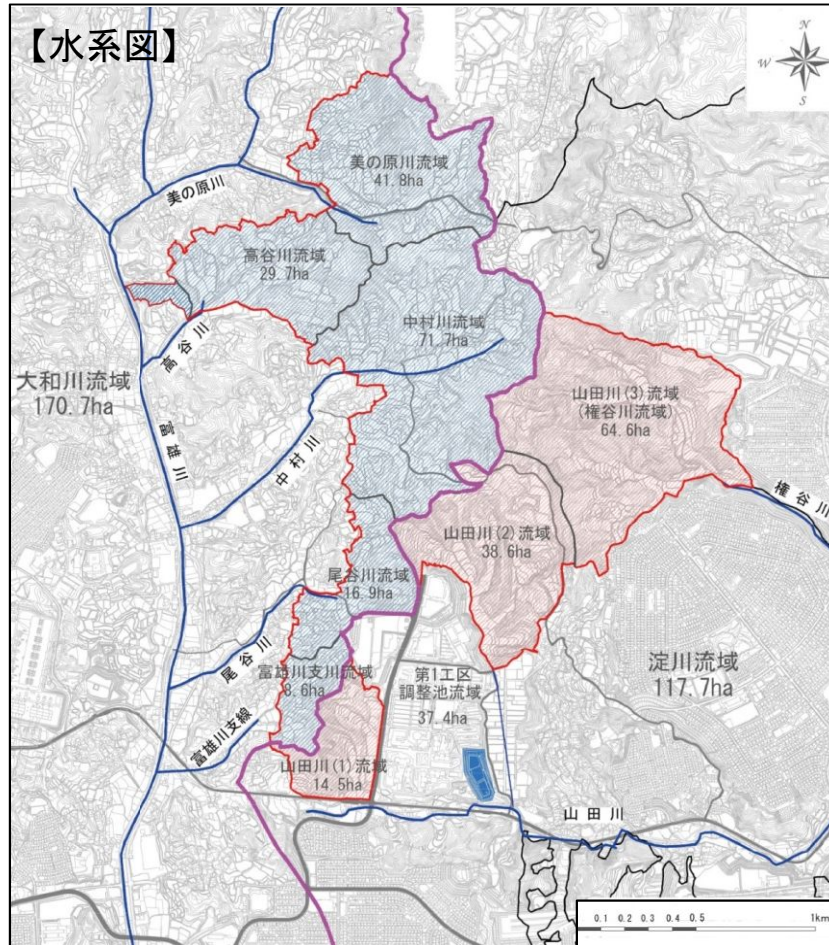
- ・本工区は矢田丘陵の北東側に位置し、北部から南部方向に緩やかに傾斜。
- ・本工区の中央部南北にかけて尾根筋が存在。
- ・本工区の南東側  
⇒ 比較的深い谷筋を形成しており、鹿ノ台と隣接して地区境界の低地部(谷部)に住宅地利用等がみられる。

検討の際の留意点

- ・起伏が激しい土地の開発は、工事費がかかるため、**現況地形を活かした土地利用**を考える。

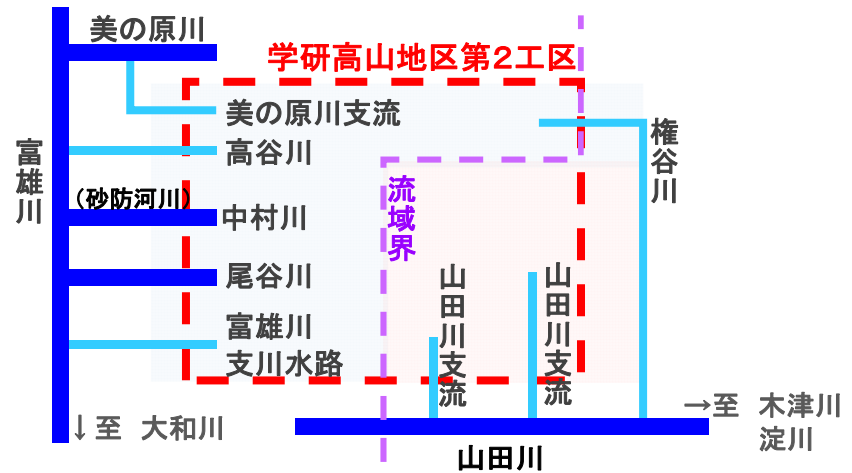
# 造成の考え方等について

## ② 水系



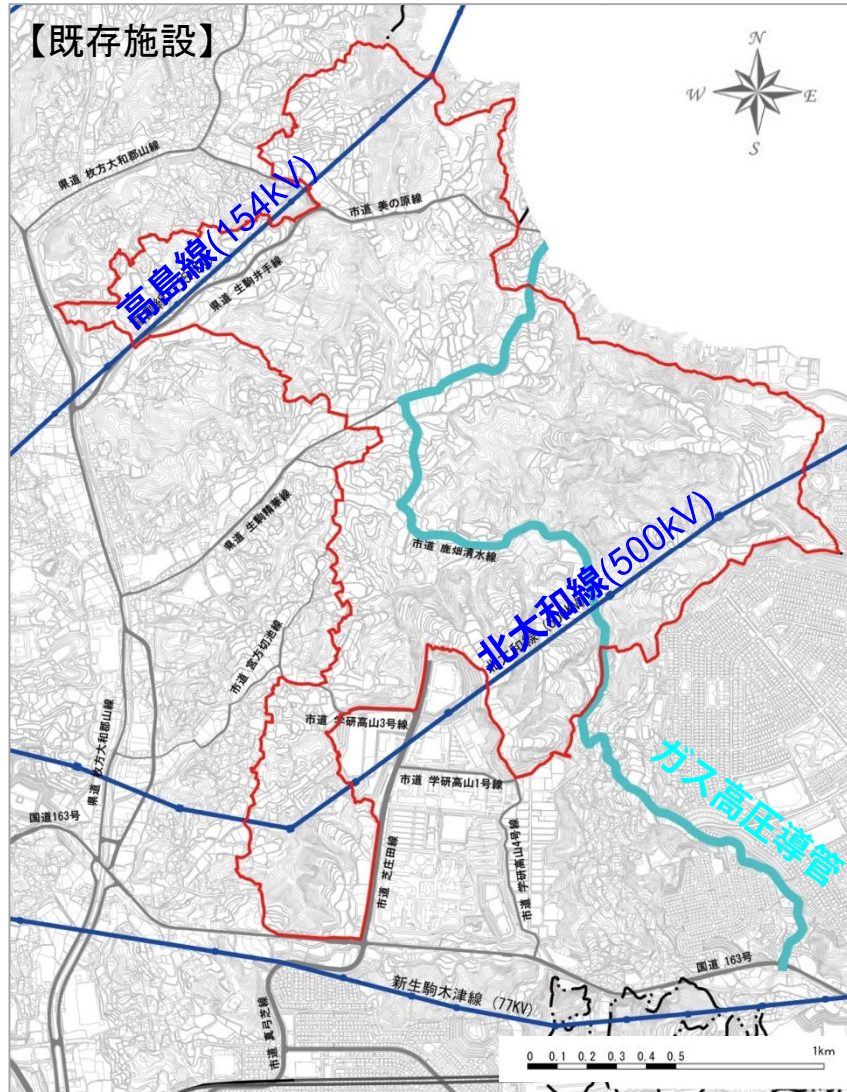
## 水系

<p>現況について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本工区は中央部を南北に伸びる尾根によって2つの流域に分かれている。</li> <li>・西側(170.7ha) ⇒奈良県管理の一級河川富雄川流域</li> <li>・東側(117.7ha) ⇒奈良県管理一級河川山田川流域</li> <li>・富雄川流域 ⇒美の原支流、高谷川、中村川、尾谷川、支川水路の5支川流域 (美の原川と中村川、尾谷川は一級河川)</li> <li>・山田川流域 ⇒権谷川、山田川支川の2支川流域</li> </ul>
<p>検討の際の留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大雨等により、下流域で河川が氾濫しないよう、各河川における現在の流域を考慮した造成計画の検討が必要</li> </ul>



# 造成の考え方等について

## ③ 既存施設



出典：独立行政法人都市再生機構資料より作成

### 既存施設

現況について

#### 高圧送電線及び鉄塔

北側⇒ 高島線(154kV)...特別高圧送電  
南側⇒ 北大和線(500kV)...超高圧送電  
本工区には北と南の2箇所を関電高圧送電線が架空で横断しており、土地利用上の制約条件となっている。

#### 大阪ガス高圧導管

県道生駒精華線、市道鹿畑清水線道路敷内に、大阪ガス高圧導管(φ600)近畿幹線第1東部ラインが埋設されており、開発に当たっては、その機能を維持する必要がある。

検討の際の留意点

- ・線下敷での建物の建設は禁止となっている。
- ・送電施設や大阪ガス高圧導管は**移設が困難**であり、**移設しなくても良い土地利用**を考える。

## 造成の考え方等について

---

### 【土地造成を検討する際に】

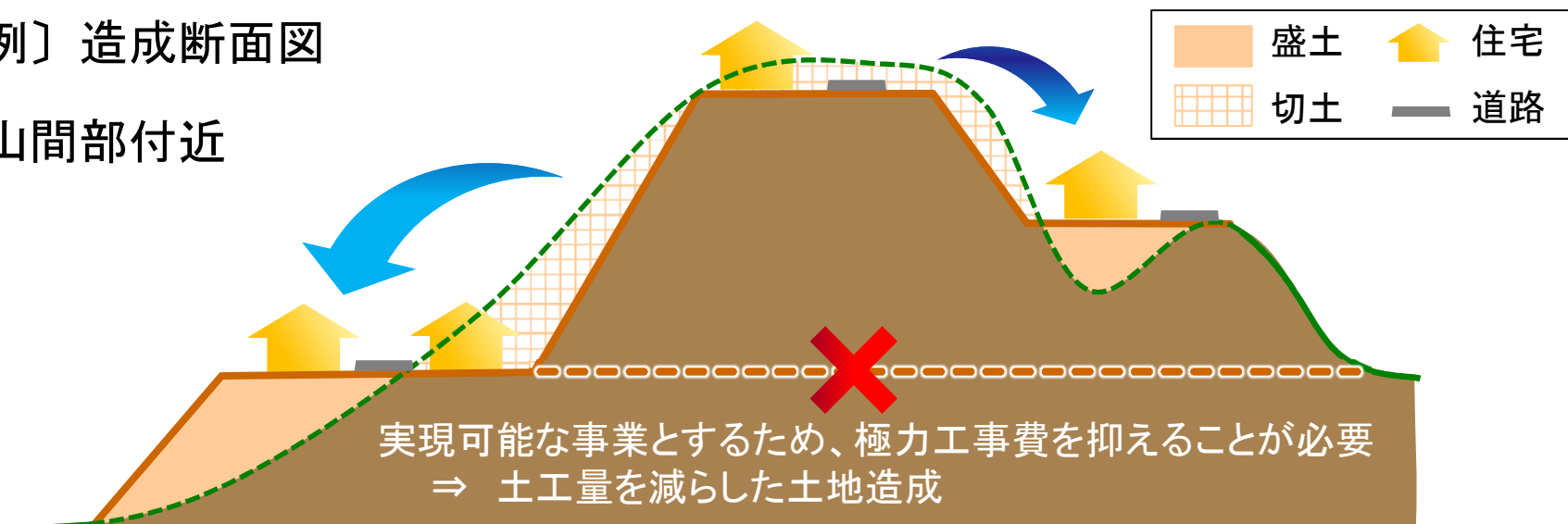
①～③を踏まえて、事業期間の短縮及び経済性等を考慮しつつ、自然環境の保全も踏まえた造成とするためには、

⇒ 現況の自然地形、地形的特性などを踏まえ、  
原地形の改変を最小限にしつつ、  
最大限の平場を確保できる造成の検討が重要。

# 造成の考え方等について

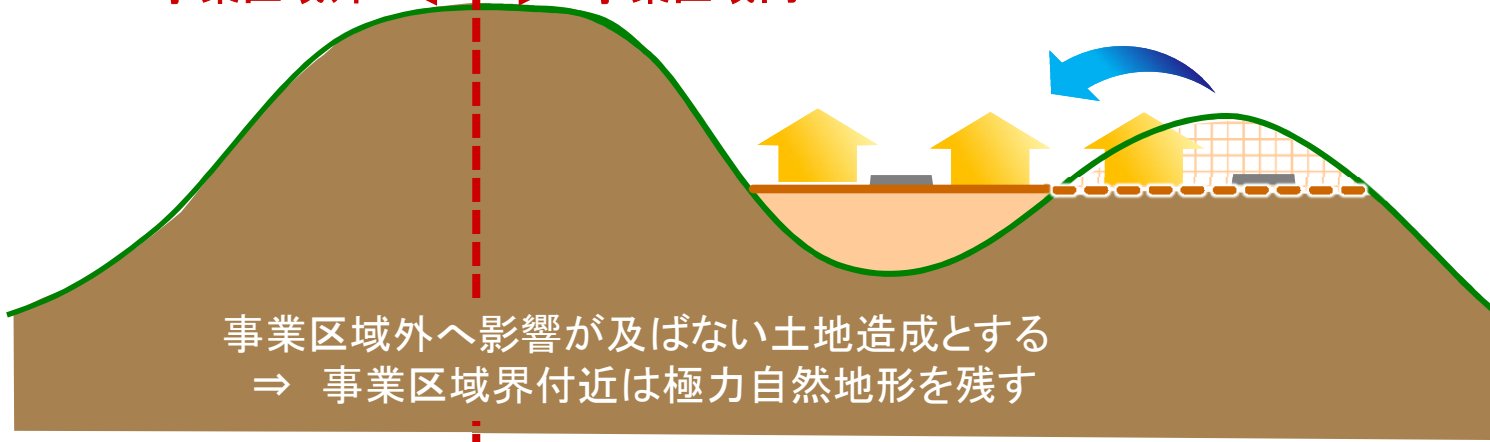
〔例〕 造成断面図

山間部付近



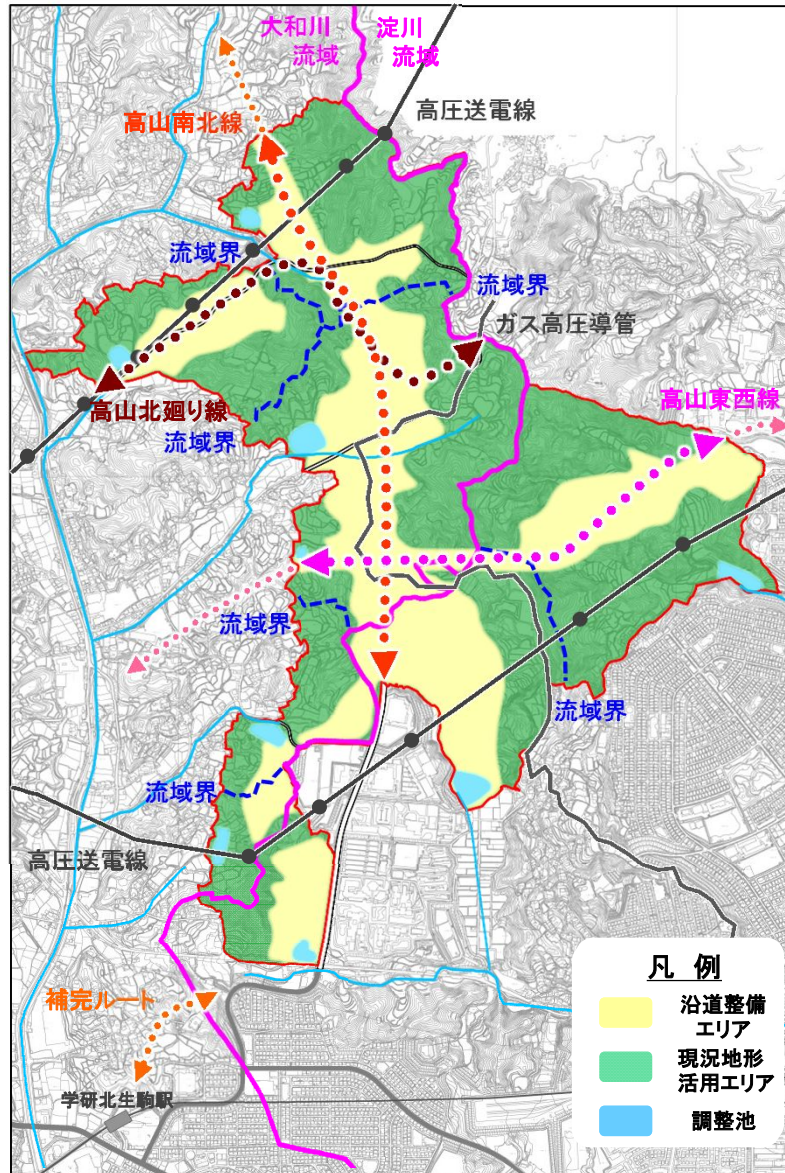
事業区域界付近

事業区域外 ← → 事業区域内



# 造成の考え方等について

## 骨格道路整備を踏まえた土地造成イメージ



### ■イメージのポイント

#### ◆地形

- 骨格道路の整備によってつくられる沿道整備エリアを最大限確保
- 土工量（切土量、盛土量）を極力抑えるとともに土量バランスを考慮
- 起伏の激しい地形を考慮し、現況地形を活かす。

#### ◆水系

- 現況の流域界を考慮し、開発エリアを想定

#### ◆既存施設

- ガス高圧導管や高圧送電線、鉄塔の移設は困難であり、移設しなくても良い土地利用を検討

※第2工区の規模や地形、流域の状況などを踏まえると、**段階的に開発を行う**ことが望ましい。